

第5回 江東区 みどりの基本計画改定委員会 議事録

日 時	令和元年8月5日（月）14：00～16：00
場 所	江東区防災センター3階 土木部会議室
出席者	<p>〈改定委員会委員〉</p> <p>■学識経験者</p> <p>島田正文 委員長（日本大学 生物資源科学部 暮らしの生物学科特任教授） 柳井重人 副委員長（千葉大学 大学院園芸学研究科准教授） 佐藤留美 副委員長（特定非営利活動法人 NPO birth 事務局長）</p> <p>■区民代表</p> <p>萩原かほる 委員（江東区立小学校 PTA 連合会代表） 関口朗太 委員（江東区立中学校 PTA 連合会代表） 梅谷真美 委員（区民応募） 西島和 委員（区民応募）</p> <p>■行政</p> <p>大塚善彦 委員（政策経営部長）（代理：高垣克好 計画推進担当課長） 林英彦 委員（環境清掃部長） 長尾潔 委員（都市整備部長） 並木雅登 委員（土木部長） 武越信昭 委員（教育委員会事務局次長）</p> <p>〈事務局〉</p> <p>管理課：石井課長、七條係長、八巻氏、吉木氏 河川公園課：大野課長、鈴木係長 PCKK：松延、谷、酒本、福永</p>
配付資料	<ul style="list-style-type: none"> • 次第 • 資料1-1：第4回江東区みどりの基本計画改定委員会における意見と対応（概要） • 資料1-2：第4回江東区みどりの基本計画改定委員会議事録 • 資料2：公園・緑地の整備方針 • 資料3：重点施策 • 資料4：地区別取組方針 • 資料5：推進体制・進行管理 • 参考資料1：江東区みどりの基本計画（第1章～第4章）（未定稿）
次第	<p>1. 議題</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 第4回改定委員会における意見と対応について 2) 重点施策について 3) 地区別取組方針について 4) 推進体制・進行管理について

<議事概要>

1. 議題

1) 第4回改定委員会における意見と対応

事務局から資料1、2に基づき、第4回改定委員会における意見と対応について説明した。

○委員長：資料1-1は、本委員会の第1回目から第5回目までの意見をまとめているのか。

⇒事務局：第4回意見概要をまとめている。

⇒委員長：計画書のどの部分に委員の意見が反映されているか整理していただきたい。

⇒事務局：第1回目から今回までの意見をまとめ、計画書の頁等を追加してどのように反映されたかわかるように整理する。

○副委員長：対応状況がどこに反映されるかを具体的にわかるようにしていただくという認識でよいか。また、CIG推進会議に関して、どこに記載があるのか教えていただきたい。

⇒事務局：計画書は施策までしか整理していない。推進体制については、後ほど説明させていただく。

○委員長：資料1-2は前回の議事録になる。事前に皆様にご確認いただいているかと思うが、いかがでしょうか。その都度、承認を得る必要があるが、よろしいか。

⇒副委員長：5頁の緑視率に関する発言について、「国土交通省」ではなく、「国土交通省の調査」が正確であるので、修正していただきたい。

⇒事務局：修正させていただき、ホームページに公開する手続きを進める。

2) 重点施策について

事務局から資料3に基づき、重点施策について説明した。

○委員長：委員会での意見を極力反映しながら重点施策として整理していると思う。

○委員：重点プロジェクト2の「柔軟に使える」という表現に違和感がある。みどりが減ってしまうような整備につながるのではないかと感じるが、目標を見ると、みどりが減るわけではないと理解できる。「みどりを多様な主体が使えるようにする」など、もう少し表現に検討の余地があってもよいのではないか。

⇒事務局：基本方針なので変更することは考えていないが、委員の意見を踏まえて、より適した表現があれば検討させていただく。

○副委員長：「4みどりをみんなで守り育て伝えます」について、重点施策としては人材育成よりも情報発信に重点を置いている理由があれば教えていただきたい。

⇒事務局：アンケート調査においても、8割以上の区民がCIGについて知らないという結果であった。それを踏まえ、まずは知ってもらうことが重要と考えている。人材育成については、施策の中で整理していく。

⇒副委員長：SNS等を活用した情報発信は、民間緑化推進事業に分類されているが、区が主催する事業やイベントなどの情報発信を行うとともに、民間団体の活動についても発信するという

認識でよいか。

⇒事務局：その通りである。CIG 公共緑化推進事業はハード面での事業が中心であり、それに対して、CIG 民間緑化推進事業はソフト施策も含めた事業である。民間での取組や区民に必要な情報を中心に情報発信していく。

⇒副委員長：区が主催している講座についても情報発信をしていくという理解でよいか。

⇒事務局：現在でも SNS 等を活用して講座について情報発信をしており、引続き力を入れていくという考えである。

⇒副委員長：CIG 自体の情報発信もするという認識でよいか。

⇒事務局：CIG は区の緑化事業全般であり、緑化事業を PR することは CIG を PR することにつながるかと認識している。

⇒副委員長：提案として、計画書の表紙などに CIG を感じられるような内容を追加するとよいと思う。

○副委員長：重点施策の 2 と 3 に「公園改修事業」という同じ事業名が出てくるが、どういった意図か。

⇒事務局：区の事業名で整理しており、取組内容で分けている。

⇒副委員長：事業名に括弧で内容を示し、見出しでわかるように整理できるとよい。

⇒事務局：CIG 公共緑化推進事業と同様に、事業名に括弧で内容を示すように修正する。

○副委員長：資料 2 の 2 頁で水辺・潮風の散歩道の図が示されている。公園は整備予定や優先整備区域等が示されているが、水辺・潮風の散歩道については、整備予定の箇所等は示すことはできないのか。

⇒事務局：水辺・潮風の散歩道については、整備環境が整った区間から整備を進めていくとしている。確実に整備できる区間に対して毎年度予算化していくことになるので、明確な計画として外部に示せるものがない。

⇒副委員長：承知した。

⇒委員：水辺・潮風の散歩道の整備箇所について、長期計画においては、護岸を分母にした整備率を示しており、対象となる護岸は分かっているので、それを図示することはできるかと思うが、例えば、潮風の散歩道は東京都による整備が完了した内部護岸から整備していくことになっているが、全ての内部護岸、内部河川を整備できるわけではない。長期計画では、総延長を分母とした整備率を指標に進行管理を行っていくことを予定しているが、100%になることはないかと認識している。図を見て、水辺・潮風の散歩道がどこにあるのかがすぐにわからない。対象箇所がどこであるかは示せると思う。

⇒事務局：潮風の散歩道の整備対象となる内部護岸、水辺の散歩道の整備対象となる内部河川の区別対象箇所を示すことはできるが計画箇所を示すことはできない。

⇒副委員長：整備可能かどうかは別として、対象となる護岸はわかるということか。江東区として大切にしたいことは、護岸緑化をつなげていく意思があるのかということだと思うので、対象となる区間を示したほうがよい。

○副委員長：みどり 100 景や公園マップは、完成してしまうと目的が達成され、利用されなくなってしまう。他区においても、完成して PR するだけで、施策にどうつなげるかということろまで

できていない。重点施策でなく、施策の中で書き込んでいただきたいことであるが、例えば、都市開発が行われる際に、みどり 100 景に対してどのような配慮をするか、公園マップをモニタリングとリンクさせるなど他の施策と絡めた活用について施策の中で示せるとよい。

○副委員長：全体的に全てハード事業の印象が強く、区民と行政が連携していくという内容に見えない。重点施策の選び方について、この 10 年間で区民との連携を推進して、区全体のみどりづくりをアップしていくという印象が感じられないのが疑問である。

⇒事務局：重点施策は先導的な役割を果たす取組として抽出している。官民連携という点では、各施策の中で区民協働との推進ということから、それぞれの事業化に向けた取組を検討していくと記載している。現時点で決められない内容について重点施策として示すのは難しいと考えている。

○委員：政策やプロジェクトの提案を受けて、区民と連携した施策展開を行っていくというような考え方があってもよいのではないか。計画の実施段階においても、意見を反映していく仕組みがあるとよい。

⇒副委員長：環境が変化していく中で、社会情勢やニーズにどう対応していくかが行政計画として重要である。柔軟な対応ができる仕組みづくりの考え方が計画に含まれていればよいと思う。

⇒副委員長：資料 5 の計画推進会議の中でそうした考え方が含まれているかと思う。その会議の立ち上げを重点施策に位置付ければよいと思う。

⇒副委員長：その通りである。推進体制があることにより全ての施策が進んでいくので、官民連携の流れを計画全体に付与してくれると思う。重点施策だけを見ると少し硬い印象を受ける。

⇒事務局：推進体制・進行管理は別章で整理している。重点施策として整理するかは第 7 章の説明をした上でご議論いただきたい。

3) 地区別取組方針について

事務局から資料 4 に基づき、地区別取組方針について説明した。

○委員：図があることでわかりやすくなってきたが、図上にも文章が多い。10 年後の姿が分かるような短い文章で整理していただけるとよい。

⇒事務局：将来のイメージ図は計画書に示す予定である。また、図に関しては、薄く公共施設等が示されている地図を重ねて表示する予定である。

○副委員長：他にイメージがつかめるのであればこれでよいと思うが、例えば写真を挿入するなどの工夫ができるとよいと思う。文章もよいことが記載されているが、文字が多い印象を受ける。また、図上の文章と右側の文章の書き分けはどのように考えているのか。

⇒事務局：全てを図上に示せるものではないと考えている。取組方針については、当初計画を継承しつつ、改定に合わせて新しく追加する事業を示している。実際の計画書では、方針図を A 3 で整理し、主要なことがわかるように整理したいと考えている。

○副委員長：区内で活動されている様々な団体がいると思うが、そうした団体へのヒアリングは別

途行い、意見を反映するという認識でよいか。

⇒事務局：ヒアリングについては昨年度行っており、意見は反映している。計画の素案についてはパブリックコメントの際にご意見をいただければと考えている。

4) 推進体制・進行管理について

事務局から資料5に基づき、推進体制・進行管理について説明した。

○委員：PDCAはどのようなサイクルで回していくのか。

⇒事務局：基本的には1年間のサイクルで考えている。みどりの基本計画をベースに、区民や事業者、区民団体、行政など、各々で事業を展開する。その結果を整理したものをみどりの基本計画推進会議において報告し、進捗状況を把握した上でご意見をいただき、計画や施策の見直しにつなげていく。これを1年間のサイクルで回していくイメージである。

⇒委員：施策や事業などの中期的な目標、チェックポイントはどうか。

⇒事務局：重点施策は10年間の期間において、前期の早い段階で検討し、実施するとしているので、計画期間での進め方や進捗状況などについて報告したいと考えている。また、重点施策以外の施策に該当する事業の進捗状況についても報告できればと考えている。

○副委員長：重点施策では、実施のスケジュールが示されているが、基本計画全体のスケジュールについては、もう少し示さないとわかりづらいと思う。

⇒事務局：推進会議は来年度に設置する予定である。PDCAサイクルについては、1年間のサイクルで考えている。計画書では、もう少しわかりやすく整理する。

⇒委員：1年後の達成目標を前年に設定するという認識でよいか。

⇒事務局：長期計画に記載のある事業は、毎年度どのような方向性で進めていくのかは明確になっているが、その他の事業に関しては、毎年度、予算を要求して事業を進めていく。そのため、1年ごとの実績を踏まえての目標設定となるので、こうした示し方しかできない。

○副委員長：計画の進行管理を行う組織は1年でPDCAを回し、5年で中間、10年後に見直しを行うことになると思う。この組織がCIC推進会議となっている。計画を実現しようとする会議がみどりの基本計画推進会議。これで名称はよいか。

⇒事務局：記載のミスである。チェックを行う組織もみどりの基本計画推進会議であり、同一の組織である。

⇒副委員長：これは同じ機能になるのか。みんなで進めていく推進力の部分と、推進した結果を確認し評価する部分は同じ機能でよいのか。同じチームで両方行うのは難しいのではないのか。推進力となる部分は、詳細に個々の事業や重点施策をどう進めていくのか検討するのが推進組織になる。それと同時に、1年間施策を実施してきた計画の全体像を評価するという異なる機能をひとつの組織で行うことはかなり大変なのではないか。同じ組織が計画の推進と計画の管理を行うという考えでよいか。

⇒事務局：進行管理は1年に1回行う。みどりの基本計画推進会議は年1回のみ設けるのではない。計画推進に関しては、評価を行う回で施策の推進についても検討ができるとは考えていない。また、行政としても次年度にどのような施策を行うか検討の場が必要となる。また、区民や事業者の活動を今後どう進めていくか話し合う場も必要になるかと思う。その都度推進会議

を設定することになるが、施策の評価に関しては、年に1回実施する。結果が上手くいっていない施策に関しては、次の回で別途検討することを想定している。

⇒副委員長：個別の事業をどう進めていくかということは別途検討するということか。

⇒事務局：その通りである。会議体では方向性を検討する場であり、個別の事業に関しては、その関係者同士で別途検討する必要があると認識している。

⇒副委員長：各主体の役割だけでなく、推進会議の役割を示す必要がある。現状では、推進会議を立ち上げるということしか整理されていない。

⇒事務局：追記する。

○副委員長：推進会議とは何かを示していただければよいと思う。左側の図が現行の推進体制ということか。

⇒事務局：その通りである。

⇒副委員長：少しわかりにくいので、会議体を変更するということをわかるように整理できるとよい。

⇒事務局：見出しをつけ、わかりやすく整理する。

⇒副委員長：現行のほうが大きく示されているので、新しい推進体制を大きく示したほうがよい。

○副委員長：各主体の役割に違和感がある。NPOは事業者にもなりうるが、もう少し区民に近い印象がある。また、大学も研究機関として貢献してもらおうパートナーかと思う。ここで整理されている役割分担が狭くなっているので、無理に示す必要はあるのか。各主体が連携し、取組を推進し、実現していくという方向性が見えるとよい。また、推進会議に学識が入ってもらうことも必要かと思う。

○副委員長：区民・行政・事業者に分類されているが、個々の想定できるステークホルダーは独立して示してもよいと思う。

⇒事務局：各主体の役割として無理に整理しているとは認識している。期待される役割をどのように表現するか、主体ごとに整理することは難しい。

⇒副委員長：各主体の役割は個々で示す必要はないと思う。事業者によるCSR活動など、それぞれができることを考え、みどりのまちづくりに向けて各主体が連携していくというようなオープンな整理ができるとよい。

⇒委員：区民にしかできないことはあまりないように感じる。

⇒副委員長：「期待されます」という表現は、誰が期待しているのか。それぞれができることを持ち寄り、みどりのまちづくりを進めていくというような整理ができると新しい計画になるかと思う。

⇒委員長：今回4つの方針を整理したので、その方針に沿って江東区らしさが示せるとよい。

⇒事務局：検討させていただく。

⇒委員長：学識と大学の研究者は推進会議に含まれている。事業者に大学が含まれているが、少し意味が異なる。また、計画書においては密度を増していただきたい。

○委員長：重点施策に含まれない事業について、軽視しないようにしていただきたい。また、地区別取組方針に関しては、これまでの意見を反映しているとあるが、再度手落ちがないように整理

していただきたい。

○委員長：区民はパンフレットを中心に見ることになると思う。高校生や大学生が読んでもわかるように整理していただきたい。

⇒委員：区民にとっては難しく感じる。読んでもらおうとするのであれば、半分程度のボリュームにすべきかと思う。

○委員：推進体制について、行政として区と学校の役割が同じなのは少し異なるかと思う。地区別取組方針については、小学校にポケットエコスペースが設置されていると記載があるが、学校名が示されていると位置関係が把握しやすいと思う。重点施策の1つ目で、公共緑化推進事業の中で、河川沿いの建物の緑化とあるが、それだけに限定しなくてもよいのではないか。

⇒事務局：修正する。

○委員：長期計画策定中であり、今後10年ということでは、みどりの基本計画と同じ期間にある。長期計画は改定しているが、基本構想については改定しない。その中で、「協働」を大切にしている。この計画でもそのような視点がクローズアップされるとよいと感じた。

○委員：環境基本計画においても、推進体制については同じような表現をしている。それほど異なることを示しているわけではないが、表現の仕方や計画を進めていく視点などがまだ十分でないと感じる。環境基本計画を通じて、みどりの基本計画を知っていただくという意味では、何を記載するのが重要であると改めて感じた。

○委員：みどり100景の中で、景観と上手く連携してほしいという意見をいただいたので、今後進めていきたい。一般的に重点施策は、施策の後に記載されており、施策の部分は重要である。重点施策としているが、予算化されており、継続的に実施されている事業が整理されていると感じた。予算から見えない部分の重要な施策に関しては、第4章で整理できればよいと感じた。推進体制について、CIG推進会議とは別途にみどりの基本計画推進会議を立ち上げるとしている。基本計画の推進会議は、計画を策定した母体があり、そこに肉付けされ、計画の進捗管理を行うというイメージで捉えていくことが一般的であると思う。この改定委員会をベースにした会議体とするのがよいかと思う。

○委員：「〇〇計画」というものは多く策定してきた。地区別取組方針の図などポイントを絞って整理したほうがよいと感じた。推進体制・進行管理については、計画を実施する上で肝となる部分であるので、具体的に整理していかなければならないと感じた。推進会議は進行管理と推進する組織が同一なものとして別途なものそれぞれが考えられ、もう少し検討してもよいと感じる。また、進行管理についても、1年間のサイクルとしているが、5年など数年単位の評価でもよいのではないか。第7章については、もう少し検討していただければと思う。

○委員：「柔軟に使えるようにします」という表現に違和感があるという意見があったが、確かに違和感を持った。作成の意図が明確に分かるように整理することが重要かと思う。分かりやすく整理することは引き続き進めていく。また、進行管理について、会議体としての推進会議の役割

については、明確になっていないと来年度以降困ることになるので、改めて整理する。

○副委員長：重点施策として、「緑化重点地区」と「重点プロジェクト」があるが、「緑化重点地区」だけでなく、「指定」や「設定」などの文言がないと重点施策としてわかりづらい。推進会議の設立を3つ目の項目として重点施策に追加するのもよいのではないか。

⇒事務局：第7章でしっかりと整理する方向で再度検討する。

一以上